

No. 104

2025.10.15

# すくらむ

発行所 福井県特別支援教育センター  
所在地 〒910-0846  
福井市四ツ井2丁目8-1  
TEL (0776)53-6574  
FAX (0776) 52-6272  
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp  
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>

- P.1 ・巻頭言「子どもと一緒に見つける支援のかたち」
- P.2 ・令和7年度の研修講座について  
・研修講座を活用した校内研修の紹介
- P.3 ・個に応じた学び方を授業に取り入れた実践について  
・高等学校における通級による指導の取組
- P.4 ・アイデアLab.について  
・実践研究発表会案内



福井県特別支援教育センターは、  
県立病院関連五機関の4階にあります。

## 巻頭言「子どもと一緒に見つける支援のかたち」

福井県特別支援教育センター 所長 岩永 英子



特別支援教育には、方向性の示唆はあるものの、明確な答えや方法がありません。インクルーシブ教育における基礎的環境整備や合理的配慮の進め方、自立活動の内容、個別の指導計画など、どれも指導書などなく、担当する先生方は常に手探りで取り組んでいます。そんなとき、最も頼りになるのは子どもの姿です。

通常学級では、特別な教育的ニーズのあるAさんへの支援を通して、担任の先生が「これはみんなで行き通すことなのでは」と気づかれることがあります。そこから授業改善が進み、合理的配慮が基礎的な環境整備になり、結果としてすべての子どもにとってよいものになることがあります。当センターにとっては、とても励みとなる瞬間です。

また、ある高校生の話です。彼は、教科書やノート、プリント類の整理ができず困っていました。周囲の大人は「ファイルで教科別にまとめるといいのでは」とアドバイスし、それをするように促しますが、本人にはしっくりこないようであまりきません。彼はあるとき、「ノートがなくなるから、全部1冊のノートに書くことにする」という自分なりの方法を見出し、うまくいっていました。しかし、そのノートを提出すると困るということにも気がつき、どうしようかまた考えました。この話からは、子どもたちが自分の得意・不得意を自覚し、自分が納得する対処法を考える、うまくいかないときには次の方法を誰かと一緒に考えていく、ということに自立活動の本質があるのではと考えさせられます。

正解がないこの現代において、子ども一人ひとりが何を望み、今何に向かおうとしているかが、私たち支援者の進むべき方向を示してくれているのだと思います。当センターでは、お子さんを支える学校の先生方、保護者の皆さま、関係機関の方々が、本人とともに考えていくためのお手伝いを行っています。

最後に、これらの実践が進展しているのは、各学校で特別支援教育の推進にご尽力くださっている管理職の先生方、特別支援教育コーディネーターをはじめ特別支援教育に携わる先生方のおかげです。心より深く感謝申し上げます。

# 令和7年度の研修講座について

## 研修講座No.6 医療、福祉、園・学校との連携

昨年度までの福祉について学ぶ講座を発展させて、今年度は、他機関連携について考える講座を開講しました。午前の部では、こども療育センター 医療課長 川谷正男氏、相談支援センター 若狭ねっと 主任相談支援専門員 深水美智留氏、福井市順化小学校 山田えみ氏、福井県立嶺北特別支援学校 前澤里枝子氏の4人を講師に、それぞれの現場からの事例を通して、多様な分野の視点から連携していく際のポイントについてお話しいただきました。一人で抱えこまず他機関を頼ること、それぞれの分野の違いを認識すること、顔の見える関係を作ること、ライフステージを通じた、縦・横途切れない連携と隙間のない支援が必要であることなど大切なポイントを再認識しました。午後の部では、深水氏に事例提供者になっていただき、1グループ6～7人の多職種の参加者で事例検討を行いました。自分の立場だったらどんなことができるか、誰とどのように連携していくかを考え、話し合いながらグループの意見をまとめていきました。演習自体が多職種間の交流の場となり、よりよい連携につながる時間でした。



### 【受講者アンケートより】

「連携の質が支援の可能性を広げることを実感できた(小学校)」「学校だけで抱え込まずに、子ども・家庭の応援団を増やしていくことが大切だと思えた。一歩踏み出す勇気をもらえた(特別支援学校)」「普段話すことのできない様々な職種の方とのグループワークで、それぞれの分野の強みが理解できて、有意義な時間だった(福祉関係)」「顔の見える関係になっていることが必要だと感じた。普段から交流の機会をもち、風通しをよくしていきたい(医療関係)」

## 研修講座を活用した校内研修の紹介

### 長畝小学校の取組

長畝小学校では、「通常学級に在籍する気がかりな児童や支援を必要とする児童についての理解を深め、合理的配慮や個別最適な学び、個々に応じた支援について考える」という目的で、以下のような研修を実施しました。

#### 現職教育① 研修講座No.5 の視聴 8/5 PM

「通常学級に在籍する多様なニーズのある子どもの心の受け止め方」

杉並区立済美養護学校  
主任教諭 川上康則 氏

#### 先生方の視聴後の 感想・気づき

「一番心に残ったのは子どもと向き合う場面での心構えだ」  
「こうあるべきを押しつけるのではなく、子どもたちと同じ目線で考えていきたい」  
「自分の考え方を变えることで子どもの行動の受け止め方も変わる」  
「心に響く言葉をたくさんいただいた」

#### 現職教育② 研修講座での気づきを活かした 事例検討会 8/9 AM

低中高学年に分かれて3事例の事例検討を行いました。講義資料を見ながら、「『ないものねだり』ではなく『あるもの探し』をしていくことが大切だったよね。」と話し合ったり、「分かりやすい授業」「あたたかい学級づくり」のアイデアを具体的に考えたりしました。

講義での学びを振り返りながら研修を進められ、充実した研修になった。

具体的な事例をもとにし、具体的な対応を複数人で考えられたことで、さらに理解が深まった。

### 坂井高等学校の取組

坂井高等学校では、7/29の研修講座No.3「発達に偏りのある思春期・青年期の子どもへのかかわり方を考える～当事者の方の声から～」を視聴後、「“あの子”のまなざしで考える～ADHDの特性とどう向き合うか～」というタイトルでグループワークを行いました。「ADHDについての理解を深める」「講義内容を自分事として捉える」「現場に活かせる工夫や気づきをグループで共有する」という目的で、4～5人ずつのグループに分かれて、①講義を振り返る②ADHDの子どものエピソードカードを読んでひと工夫を考える③各グループの意見をシェアするという内容で実施しました。

当事者の方の話を聞いたことで「支援しなければ」という感覚から、「互いがやりやすい状態に調整変更しよう」という気持ちに変わった。

高校生にもなると、自己理解や自己受容が大切になってくると感じ、少しでもその支援ができるかわりを心がけたいと思った。



グループワークでは、様々な先生方の経験を織り混ぜることで工夫点が見出せた。同僚性の大切さを痛感した。

# 個に応じた学び方を授業に取り入れた実践について

小学校の通常学級において、児童の個に応じた学びやすい学習方法について検討し、学級全体の授業に活かしていく取組、及び、学び方の多様性を認められる学級作りについて紹介します。

## A小学校4年生の実態

昨年度、教育相談に入ったA小学校4年生の学級には、書くことに困難さがある児童が複数名在籍していました。他にも作文や文章を書くことに苦手意識を感じている児童が在籍していました。

### 担任の先生の思い

書くことに苦しさをもつ児童を含め、学級の児童が自分で学習しやすい方法を選択し、主体的に考え、表現してほしい。

### 自分の意見を記入する方法

- ・タブレットを使用する。
- ・ワークシートに記入する。
- ・教科書に線を引いて口頭で伝える

### 子どもの姿

表現方法を自分で選び、考えを記入することで児童が時間いっぱいたくさんの人と意見交換をしようとする姿や、ノートに友達の意見を書いて意見の輪を広げる様子などが見られた。書くことに困難さがある児童もノートに意見を書いて「書いた」と教師に伝えてきたり、教科書に線を引き口頭で考えを友達に伝えたりし、「できた」と嬉しそうな様子が見られた。

### 作文の学習

児童がタブレットに保存されているちょうやクラゲなどの「シンキングチャート」(図1)の形式の中から使いやすい形式を選び、担任の先生や他の児童と作文の内容について話し合いキーワードを記入し、タブレットに作文を打ち込む様子が見られた。担任の先生から作文を書くことに苦しさを感じている児童が多いと聞いていたが、楽しそうに作文の内容について話し合ったり、タブレットを持って自分が集中できる場所へ移動し、打ち込んだりする様子が見られた。書くことに困難さをもつ児童も集中して打ち込んでいた。



(図) シンキングチャート

### 担任の先生の思いの変化

以前は書かせることに一生懸命になっていた時期もあったが、研修で「書くことに苦しさを持つ児童が、なぜノートに振り返りを書かないといけないのか、何を学んだかを確認できればいいのではないかと助言を受けた。児童が何を学ぶかが大切で、学習方法はその子に合わせればよく、個に応じた学びとは何かを考えるようになった。児童が個に応じた学び方で学習できるようにするために、見通しや目標を児童と共有することが大切だと実感し、授業の流れを黒板に記入して伝えるようになった。書き忘れると児童が伝えてくるようになった。

### 所員の感想

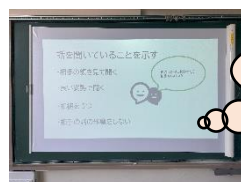
授業の児童の様子や担任の先生のお話から、個に応じた学びや学び方の多様性が認められる学級作りに大切な視点について所員も気づかされ考えることができました。

## 高等学校における通級による指導の取組～A高等学校の実践～

高等学校段階では、進路選択や社会参加を見据えた支援が求められ、自立活動の内容が特に重要となります。生徒が自分らしく生きていくための基盤となる力を育てるための自立活動の内容について、A高等学校の小集団での活動の取組を紹介します。

### 自立活動とは・・・

- ・全員が尊重され、居心地よく感じられる場所
- ・安心して自分のことを話せる場所
- ・生きていくうえで役に立つ知識やスキルが得られる場所
- ・自分と他者の理解を深める場所



目的やルールを  
生徒にも分かるように  
伝えています

### 【活動①】数字の投げ入れゲーム

- <ねらい>・周りの雰囲気を感じる力を養う。  
・お互いを尊重するマナーを体感する。
- <内 容>・順番を決めず、誰からでも好きなタイミングで数字を1から順番に言う。  
・同じ数字を他の人が言ったら終了。

表情など、言葉以外で  
タイミングを感じ取る  
ことが大切です！

### 【活動②】Good&New

- <ねらい>・出来事を振り返り、前向きな気持ちになる。
- <内 容>・先週の出来事で良かったことを3つ考えて、ワークシートに書く(5分間)  
・発表し合う。
- 時間の見通しがもてるように  
砂時計を使います

### 【活動③】コミュニケーションカード

- <ねらい>・自分自身を理解し、自分を生かす。  
・色々な性格があることを知り、人との違いを理解する。
- <内 容>・カードを見ながら、自分はどのタイプの特性かを考える。  
・〇〇(身近なキャラクターや人)は、どんな性格かを考えたり、他者とのかわり方を考えたりする。



### 発表の際のルール

- ・他人の話を真剣に聴く
- ・お互いを否定せず、認め合う



生徒自身が学んだことを振り返る(チェックシートをつける)ことも大切です。

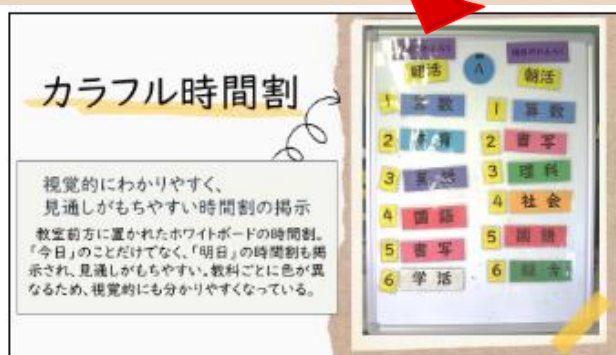


コミュニケーションが苦手な生徒や話を聞くことが苦手な生徒が、自分の思いを言葉で話せるようになったり、落ち着いて話を聞いたりすることができるようになってきました。また、小集団で学ぶことで、他者を受容する、仲間ができたという思いになりました。自分の居場所もできたようです。

# アイデアLab. -すぐに取り組み、役立つアイデア-

## 当センターのHPに新しいページができました！

インクルーシブ教育の推進を目的として、当センター所員が学校訪問をした際に集めた、「教室環境整備」や「授業」の工夫を紹介するページです。アイデアは今後も、随時追加していく予定です。どれもすぐに取り組むことができ、思わず真似をしてみたいくなるようなよいアイデアばかりです。ぜひお役立てください。



## 実践研究発表会 案内



### テーマ：共生社会をめざしたインクルーシブ教育の取組 ～多様な教育的ニーズのある子どもたちが生き生きと 園・学校生活を送るために～

多様な教育的ニーズのある幼児児童生徒が生き生きと生活するために、園・学校全体で、また関係機関等が取り組んでいるインクルーシブ教育の推進に向けた実践研究の発表を通して、広く意見や情報を交換し、指導の一層の充実と教職員の資質向上を図ることを目的に、『実践研究発表会』を開催します。12月中旬に開催要項を配付しますので、ご覧ください。また、ホームページでもご案内いたします。ぜひご参加ください。

日 時：令和8年2月9日（月） 10:00～16:00

開催方法：オンライン（Zoom） ◎各所属校・機関からご参加いただけます！